



身振り手振りで聴講者を引き付ける志村氏

市は、協働のまちづくり講演会を開催しました。胆沢文化創造センターで開催されました。「なんとかすっぺ！おらほのまぢ奥州」と題し、花巻市の有りウイルビー代表取締役で、劇団ぜんとようくらぶ代表の志村尚一氏が地域活性化について講演。西和賀町のまちおこし事例を紹介しながら、人と人が出会いつながらことの重要性を説きました。聴講した約100人は、歌や踊りを交えた志村氏の講演に、時に笑い、時にうなづきながら、まちづくり・人づくりのポイントなどを学びました。

協働のまちづくり講演会を開催



やさしい笑顔で聴講者に語りかける講師の後藤のりこ氏

教育振興運動講演会を11月30日、市教育振興運動推進協議会と市教育委員会の共催により江刺総合支所で開催しました。この講演会は、昨年度に統いて2回目の開催。今回は「あなたの聴き方・話し方大丈夫？」と題し、フリーアナウンサーの後藤のりこ氏を講師に迎えて講演を行いました。

子どもたちの話をきちんと聞くことで、大人もコミュニケーション能力が高まり、子どもとの関係が良くなるとの講師の話に、聴講した教育関係者など約150人は、子どもたちの健全育成への理解を深めました。

子どもを育むコミュニケーションを学ぶ



地区から出された要望に対し説明する小沢昌記市長（左から2人目）

市は11月18日、19日、21日、地区要望回答説明会を各区の会場で開催しました。これは7月と8月に行つた「地区要望を聞く会」で各振興会などから出された要望に対し、市の回答を説明したものです。説明会には、5会場で地区振興会長など60人が参加。市は要望の大半を占める道路改修や交通安全対策などに対して今後の対応方針を示したほか、「地区要望を聞く会」の開催内容を来年度以降見直し、地域の政策的な課題を市長とディスカッションする方針を説明しました。

地区からの要望に市が回答



地区住民による声掛け訓練（右が徘徊者役の住民）

市と前沢区白山地区振興会、同地区福祉活動推進協議会は11月16日、白山地区を会場として、認知症徘徊模擬訓練を実施しました。これは認知症を原因とした徘徊による行方不明事案発生時の地域支援体制構築を目的に行われたもので、県内初の取り組みでした。

約100人の参加者は、届け出訓練や情報伝達訓練のほか、声掛け訓練を体験。声掛けをした参加者は、「徘徊はいつ、どこであるかわからないので、徘徊者に会った場合は声掛けをしていきたい」と語りました。

認知症徘徊模擬訓練を県内で初めて開催



このコーナーでは、各自治区の情報を掲載。また、各自治区が抱えている課題などを取り上げていきます。

胆沢区

待望の胆沢ダムが竣工

胆沢ダムの竣工式が11月16日、胆沢区若柳の同ダム管理所で行われました。当日は、関係者など約300人が出席し、くす玉開披や記念放流、移転者による献花、湖名碑の除幕などが行われ、31年に及ぶ一大プロジェクトの完成を祝いました。

同ダムは、①北上川水系の洪水調整②河川環境の保全③かんがい用水の補給④水道用水の供給⑤発電——を目的とした国内有数の中央コア型ロックフィルダム。昭和58年4月に実施計画調査を開始し、63年4月に建設事業、平成15年1月に本体工事に着手しました。22年5月に堤体が完成し、24年12月からことし10月まで試験湛水を実施。来年4月から本格運用されるものです。

【胆沢ダムの概要】

▽堤頂の標高	364 m
▽堤の高さ	127 m
▽堤頂の長さ	723 m
▽堤の体積	1,350万m ³
▽湛水面積	4.4 km ²
▽総貯水容量	1億4,300万m ³
▽事業費（概算）	約2,360億円



1くす玉を割り祝福 2湖名碑の除幕（「奥州湖」の揮毫は小沢昌記市長） 3記念放流セレモニーでスイッチを押す来賓

前沢区

上野原小学校で閉校式

市立上野原小学校（橋本英明校長、児童54人）の閉校式が11月24日、同校で行われました。同校は、昭和27年に前沢小学校の分校として設立、30年に上野原小学校として独立開校しました。

この日は、在校生や関係者のほか、同校を卒業した多くの地域住民も参加。懐かしい学びや別れを惜みました。



お別れの“呼び掛け”をする全校児童

統合前沢小の校舎が完成

来年4月の開校に向けて建設が進められていた統合前沢小学校の校舎がこのほど完成し、11月22日に引き渡しを受けました。現在、体育館、プール、外構の工事が行われています。

また、統合する7校により学年ごとの交流会が行われるなど、4月に向けてハード・ソフト両面の準備が着々と進められています。



完成した校舎。手前のグラウンドは整備中